



元気いっぱい!!



〒150-0012

東京都渋谷区広尾4丁目1番1号
Tel. 03-3400-0147 (代) 03-3400-1311

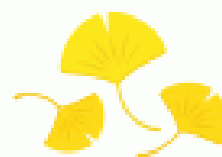
<http://www.med.jrc.or.jp/nyuji-in/index.html>

理念

私たちは、「人道・博愛」の赤十字精神を行動の原点として、子どもの最善の利益を守り、心身ともに健やかに成長できる保育看護を提供します。

私たちは、家族に寄り添い、地域との連携をはかり、家庭復帰を支援します。

子ども達の思いを受けとめて



あるテレビ番組の中で、養育里親の家庭で育ったお子さんが 18 歳となり、将来の夢を語っていました。「自分が育ったこの家庭のような、温かい家庭を築きたい。子どもを優しく見守り、子どもの話をいっぱい聞きたい。」と話していました。お子さんの言葉に、ほっと温かさを感じました。

一方、ニュースや新聞で悲しい、切ない子どもに関する出来事を聞いたり、見たりする状況があります。人は生まれ育つ中で、色々な人と出会い、沢山の思いを伝え、受けとめながら成長していきます。自分の思いが伝わることで、うれしさや自分を認めてもらった安心感が生まれてくるのではないのでしょうか。

乳児院という施設で育つ子ども達は、たくさんの人と関わりながら成長していきます。当院では、人間関係の基礎となる「基本的信頼感」や「愛着」を育むために、担当養育制を設けています。子ども達は担当保育者へ自分の思いを笑って、泣いて、怒って、と様々な形で表現し、ぶつけていきます。その思いを担当保育者は、一つ一つ受けとめようと、子どもたちに向き合っています。

先日、音楽ボランティアの方の二胡という弦楽器の演奏を聴く機会がありました。その時、一人の男の子が二胡に触りたいと言い始めました。傍らの担当保育士は、その子をじっと見て、「触りたいんだよね」と受けとめていました。男の子は保育士をじっと見て、今度は「抱っこしてー」と甘えていました。保育士はその子をギュッと抱っこしました。

演奏会などの行事中に、泣いたり走り回ったりする子がいると、周囲は困ったと感じるのは当然かなと思います。けれども、その時、しっかり子どもの目を見て、優しく受けとめることが大事なことだと、改めて感じた出来事でした。日々、成長していく子ども達の些細なサインも大事にしていきたいなと思っています。

乳児院看護副部長 臼井



食育「夏野菜カレー」



7月の暑い日、乳児部のお姉さん、お兄さん達はやる気満々。乳児院の畑に集合し、きゅうり、なす、トマトの収穫から始まりました。昨年は野菜に触るのも嫌がって、泣いたり、首を振ったり、見ないようにしていた子も、今年は手を添えたり、ちゃんと野菜を見ていました。

プレイルームでお手伝い第二弾！お米とぎ、枝豆とり、とうもろこしや人参、玉ねぎ、じゃがいもの皮むきです。調理師さん達やあーちゃん達と一緒に、引っ張ったり、ちぎったり、お米に触れた途端に電気でも走ったように驚きながら、プレイルームは新鮮な野菜の香りでいっぱいでした。

皆でワイワイ言いながら剥いた野菜は、調理師さん達にバトンタッチ。皆の頑張りど、調理師さんやあーちゃん達の愛情をお鍋に入れて、彩あざやかな夏野菜カレーができました。自分達で収穫し、皮むきもしたので、カレーの味は絶品でした。いつもより沢山食べて、楽しい思い出になりました。 保育士 佐藤



食育「お団子作り」

秋のお月見団子をイメージしながら、白玉粉を使ってお団子を作りました。「お月見」や「だんご」がイメージできるように、『おつきみうさぎ』などの絵本も読み聞かせていました。

白玉粉に水を入れ、手でこねたり丸めたりすることに戸惑う子もいましたが、次第に粉の感触に慣れ、かわいいお団子を沢山作ってくれました。みたらし団子とあんこ団子が完成し、「おいしいねえ」と会話も弾み、お料理して食べる楽しさを体験することができました。 保育士 菊池



「夏の体験ボランティア」を通して

子ども達は、初対面の私にもすぐに遊ぼう！と輪の中に入れてくれました。また、散歩の時に互いに「〇〇ちゃん、行こう」と声をかけ、励まし合っている姿が印象的で、一緒に生活している絆を感じました。職員の方々が子ども達一人ひとりをよく観察し、愛情たっぷりに接しておられたことに感銘しました。子ども達との遊びや授乳を通して、一人の命を育てていくことの重み、そしてやりがいを全身で感じました。とても貴重なお時間をありがとうございました。

高校3年 Yさん



初めての海



9 月上旬、小規模グループのらいおん室 6 名の子ども達と一緒に、お台場へ外出しました。初めて見た海に興奮し、大はしゃぎで海に入り水遊びを楽しむ子もいれば、驚いておとなの脚にしがみつき離れない子、砂遊びを楽しむ子、と反応は様々でした。昼食はみんなが楽しみにしていたバイキング！たくさんの料理の中から自分の好きな料理を選び、お腹いっぱい食べました。心もお腹も満たされ、みんなが笑顔になった一日でした。

保育士 山田



初めての縁日

町内の東北寺で行われた縁日に、乳児部・幼児部合同で参加してきました。太鼓の音を楽しみ、お神輿を見て、いざお寺の縁日へ！

かき氷、綿あめ、おでん、焼きそば等をご馳走になりました。ふだん食が進まない子も、綿あめの甘さに夢中。子ども達の大襲来に最初はびっくりされた地域の方々も、とても優しくお世話してくださり、賑やかな楽しい縁日となりました。



看護師 矢野



赤ちゃんにハチミツを与えてはいけない理由



ハチミツには、ボツリヌス菌という命に関わる猛毒の菌が含まれている可能性があります。1 歳を過ぎた幼児では、胃腸内の抵抗力が高まっているため、ボツリヌス菌の含まれたハチミツを食べたとしても、健康に影響が出る心配はありません。しかし 1 歳未満の乳児では、まだ腸内細菌が少なく抵抗力が弱いため、「乳児ボツリヌス症」になってしまうことがあります。

乳児ボツリヌス症になると、母乳やミルクを飲む力が弱まり、手足の麻痺や呼吸困難を起こし、死に至る危険性があります。この怖い感染を防ぐため、1 歳未満の乳児にはハチミツを食べさせてはいけません。ハチミツの容器のラベルや母子手帳にも「1 歳未満にハチミツは与えないで！」と書かれています。

お母さまだけでなく、ご家族や赤ちゃんに関わるすべての方に、乳児ボツリヌス症を知っていただきたいと思います。ハチミツは 1 歳まで禁止です！

看護師 成田



レクロスの皆さんと



乳児院では数年前から、高齢者福祉施設の「総合福祉センターレクロス広尾」と交流を行っています。入居されている方々の所に、子ども達が月に2回程遊びに行っています。一緒にわらべ歌を歌ったり、絵本を楽しむ姿を見ていただいたりして、子ども達にとってだけでなく、入居者の方々にも、とてもいい体験になっているようです。また、光や振動や音楽などの様々な感覚が体験できる「スヌーズレン」という施設を利用させていただいています。

今年は初めて、レクロスの夏祭りに誘っていただき、「みんなで甚平を着て行こう！」と楽しみにしていたのですが、感染症の流行で参加できなくなってしまいました。残念だったのですが、レクロスの方々のご厚意で、夏祭りに出す予定だったアイスクリームを届けていただき、みんなで美味しく食べることができました。

体調を万全に整えて、今後もたくさん交流を持ちたいと思っています。

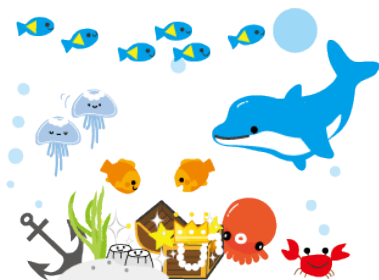
心理士 福井



新入職員紹介



7月から乳児院で働いています、保育士の倉林です。入職して3ヶ月が経ちますが、かわいい子ども達と関わることができて、毎日とても楽しく過ごしています。乳児院で働くのは初めてなので、まだまだ至らない点がたくさんありますが、頑張っていきたいと思います。よろしくお願いします。



編集後記 お散歩から帰ってきたRちゃんが、大事そうにどんぐりを見せてくれました。秋は遠足や運動会を予定しています。元気いっぱい、笑顔いっぱいの秋になりますように！